



舟山島巻

可東みの助



船舟山群島に入る
井戸の海に到る所
大渦巻をふり



阿波の
鳴りこ
る
はつち
の海

定海碼頭
之風景



定海飯店屋上より
見たる青龍頭山
山頂の黒き突起は
倭寇の烽火
塔なり



定海
城の
街
古老の
顔の如く
寂びたり



碼頭
露天市の
床屋
金ピカの椀付の鏡
のある街頭浮世床
の豪華版なり

碼頭
石頭
苦力
の食慾
食物を
胃の腑
に運搬
する機械の
如し



定海
城内
の街

古来の
顔の如く
寂びたり

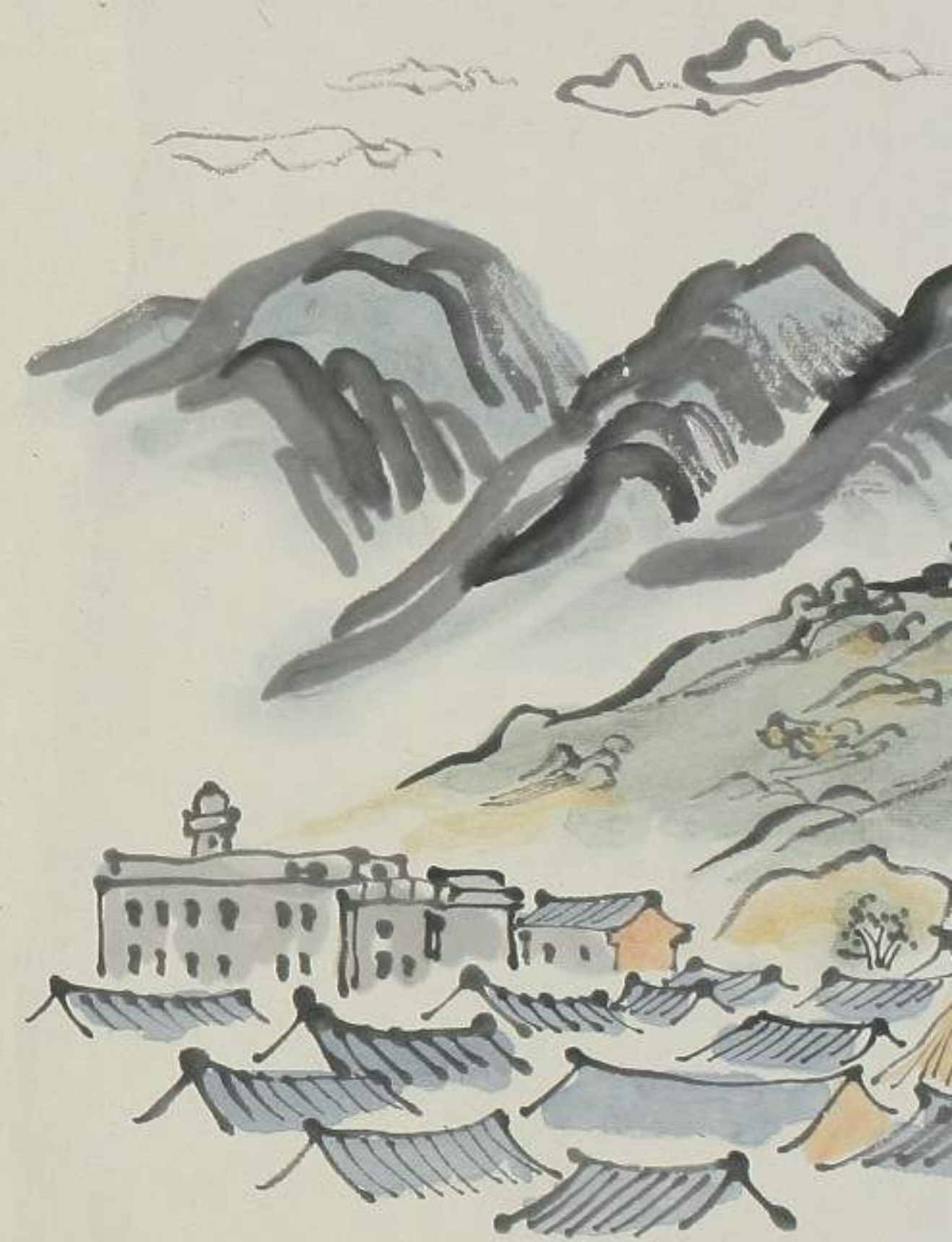


定海飯店屋上より
見たる青靄頭山
山頂の黒き突起は
倭寇の烽火
塔なり



青靄
頭山頂
よりの
眺望





青島
頭山頂
よりの
眺望

瀬戸
内海
の風景
似たりや
似たり

倭寇華やかたりし日
即ち此の烽火塔より
烽火を挙げて和船
の来航を山林麓に告ぐ



青島頭山林麓
塩城砲台
之遺蹟
西暦一八〇〇年代
ロンドン製花の
白砲より



倭寇寇華やかなりし日
即ち此の烽火塔より
烽火を挙げて和船
の來航を山林麓に告ぐ

青島頭山麓
塩城砲台
之遺蹟
西暦一八〇年代
ロンドン製花の
白砲より

砲台附近
の塩田風景
年若き娘の
塩つくり

いかなる家
にも巨大な
水甕
あり
飲料水
に乏しき島
あれば雨水を
貯蔵する
なり





定海より舟行
二時間餘にして
舟山島南端
沈家門に至る



名物
塩醬油
老酒・鶏卵
大面鳥



甚だ日本人
に近
し

容貌骨格

倭寇の血の混入

か定海附近の人々

定海、自警
団員

舟山
島
娘

いかなる家
にも巨大な
水甕
あり
飲料水
に乏しき島
ふれば雨水を
貯蔵する
なり





定海より舟行
二時間餘にして
舟山島南端
沈家門に至る



沈家門碼頭より
 舟行二時門余
 支那三大佛靈場
 普陀山短姑道頭
 に到着く
 南無阿彌陀佛
 善男信女は此処を
 起衰として佛縁たより
 お山詣りに発足する



沈家門碼頭より

舟行二時門余

支那三大佛靈場

普陀山短姑道頭

に参る

南無阿彌陀佛

善男信女は此処を

起真として佛縁たより

お山詣りに発足する

此系竹林

香山室巻

全集より

千江有水千江月

万里無雲万里天

西方先祖達磨僧

特来東土化衆生

燒香礼拝相運者

九十九祖盡超昇

焚香冥燭請觀音

直至香山紫竹林

手執楊枝甘露水

奉臨灑掃道場新

念佛持舟升天去

貧恋家園在紅塵

聖賢都是凡人做

昔日如来降世臨

要知我佛成正果

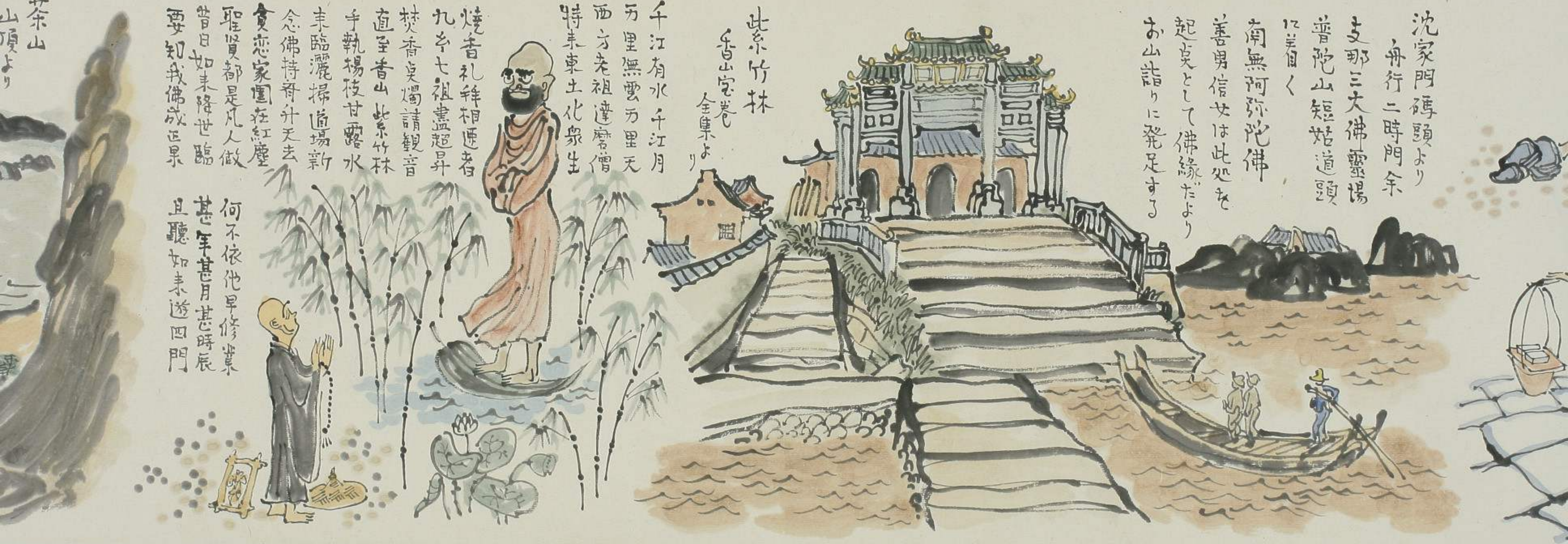
何不依他早修業

甚年甚月甚時辰

且聽如来遊四門

茶山

山頂より

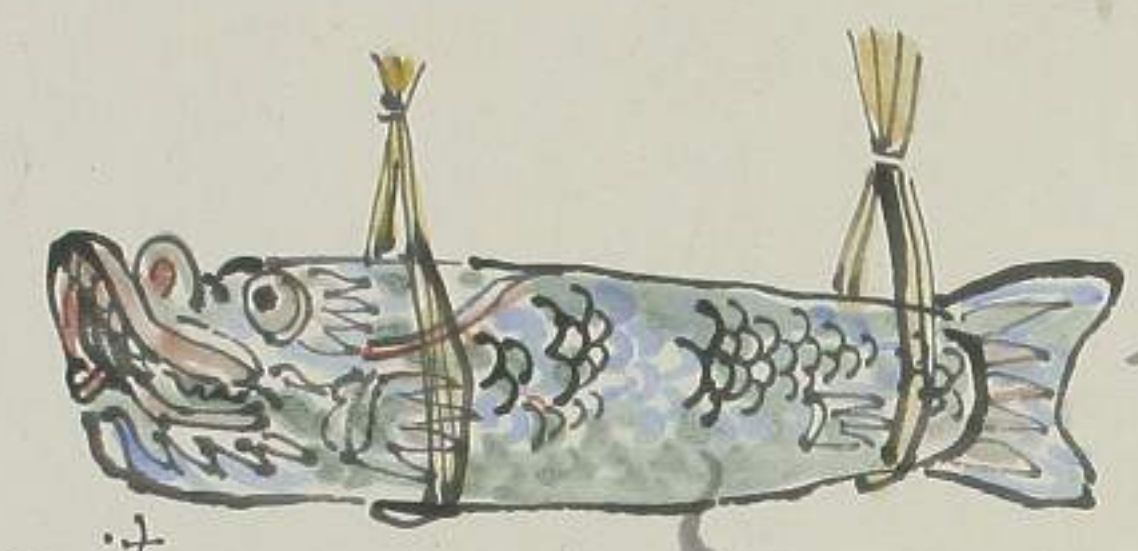


昔は如来降世臨
要知我佛成正果
且聽如来遊四門

芥山
山頂より
千歩沙
もろまむ



佛頂山の頂近く
海天佛國
一覽扶石あり



法雨禪寺
の大木魚



参禪
毎道
之僧



昭和拾七年拾月拾日



法雨禪寺
の大木魚



參禪
無道
之僧

昭和拾七年拾月



舟山島図巻

みづ



西垣文庫

文庫10

8825